

# 暮らしを豊かにする

# 地域創生の

# チカラを身につける。

Faculty of Agriculture

## 農学部

生物資源科学科

- ▶ 生物科学コース
- ▶ 食資源環境科学コース
- ▶ 生命機能科学コース
- ▶ 国際・地域マネジメントコース

生命機能科学コース  
副島 加蓮 長崎県 佐世保北高等学校出身

### 〈学部の特徴〉

21世紀は、人類が大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から循環型社会へと大転換する時代です。「食料」「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」等どれをとっても、今ほど人類がその重要性を強く意識した時代はないでしょう。そして、これらの課題こそ農学が得意とするところであり、時代は農学の発展を必要としています。農学は、理系から文系にわたる分野を含む、基礎から応用に及ぶ総合科学です。農学部には、「食料」「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」を対象とするさまざまな教育研究分野が揃っています。本学部だけでミニ総合大学といっても過言ではありません。入学すれば皆さんの希望する分野がきっと見つかるでしょう。

### ■ 教育目的

農学部では、農学および関連する学問領域において、多様な社会的要請に応える深い専門性と幅広い素養を身に付け、国内外での農業および関連産業の発展に貢献する人材を養成することを目的とします。

アドミッション  
ポリシーはこちら



### ■ 在学生インタビュー



### 農学部で学んだ知識や技術を 活かせる職業に就きたい。

農業をはじめとする幅広い分野を学ぶこと、また、入学後に自分が興味を持った分野に進めることから、佐賀大学の農学部に興味を持ちました。畜産学、食物育種学、病理学など幅広い分野を学びますが、特に好きな授業はフィールド科学基礎実習です。食肉加工や牛の世話など初めての経験も多く、仲間と協力して作業を行い有意義な時間を過ごしています。大学でも趣味でも野菜や果物を育てていますが、授業で学んだことを活かして植物を育てる楽しさを実感しているところです。友人や先輩との交流や実習での共同作業を通じ、入学前よりも周囲と協力して取り組む力が身についたと感じています。将来の夢はまだ明確ではありませんが、選択肢を増やすためにも、今は食品衛生管理者の資格取得を目指しています。

生物科学コース  
小野 鈴葉 福岡県 春日高等学校出身

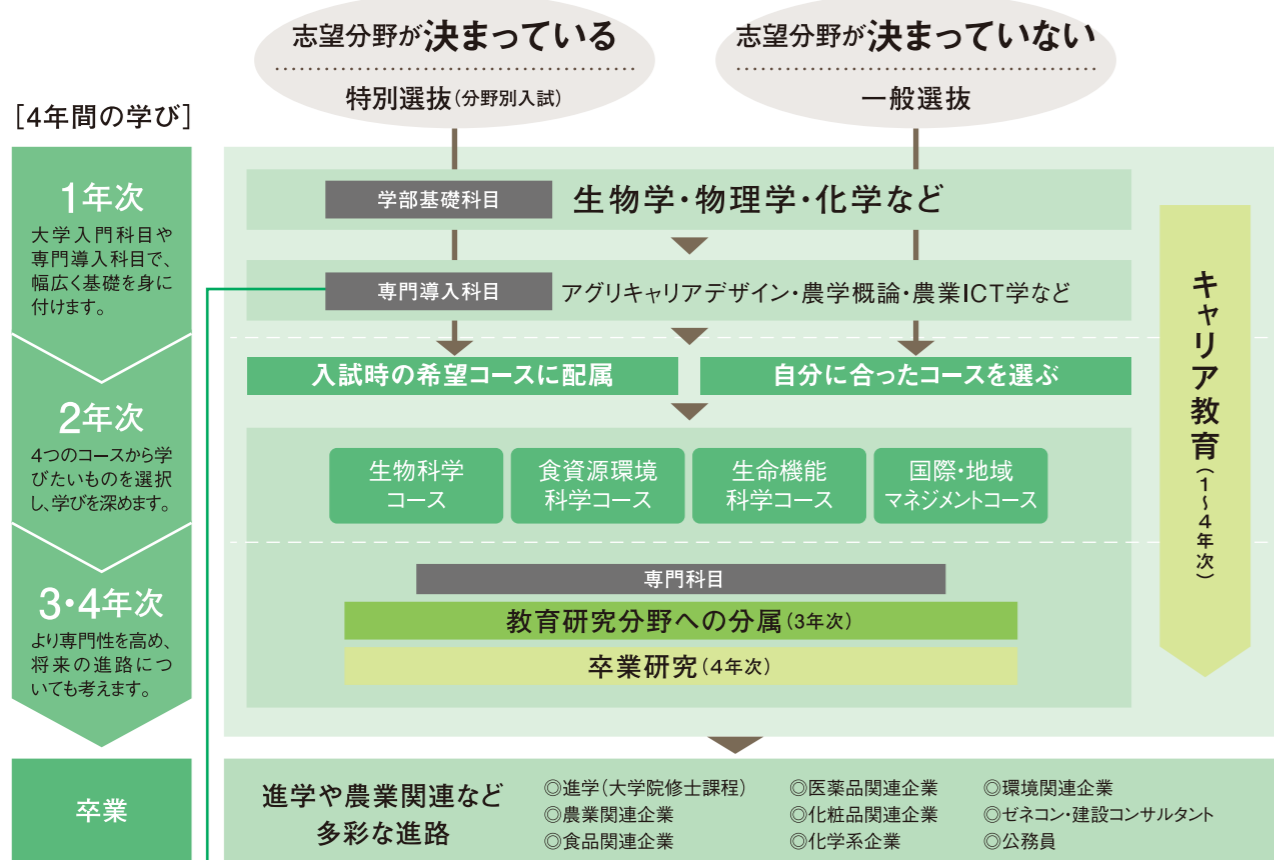
インタビュー動画も  
ご覧いただけます



## 充実の設備で実践学習 体験し、学び、身につける

### 01 1年次に各専門科目の基礎を学びながら 自分の希望コースをじっくり選択

農学部には「食料」や「生命」「環境」「情報」「エネルギー」および「地域社会」など、それぞれ特色が異なるさまざまな研究分野があります。そこで、まず1年次に農学の基礎科目である生物学、物理学、化学を必修とし、深い専門性を身に付ける素地を構築。専門導入科目で農学に関する基礎知識を幅広く十分に修得したうえで、2年次の専門コース選択へと進みます。



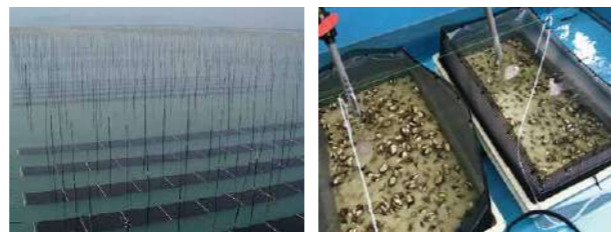
**KEY POINT**

1年次の後学期から始まるカリキュラム。前学期で基礎を十分に修得したうえで、各専門科目の導入部分に触れていきます。2年次から始まる専門コースの教育に必要な幅広い素養を身に付けるとともに、各コースでどのようなことが学べるのかをあらかじめ知ることによって、コース選択の際に確かなマッチングが行えるようになります。

**専門導入科目**

### 02 佐賀県を代表する「ノリ」「大豆」や「米」を 研究する地域特化型農水産研究

佐賀県域の農水圏生物生産や利用技術等をより高度にしていこうとする試みが、地域特化型農水産研究開発です。さまざまな問題を抱える地域の農・水産業の課題解決・発展を図ることを目的としています。佐賀県の主力農産物のひとつである米や大豆についての研究を進め、佐賀大学発の農産物ブランド化戦略を行っているほか、水産学では水産物の高品質・安定生産を目指して、ノリや二枚貝等の遺伝子解析や代謝解析を実施。佐賀県のノリを中心とした水産業を振興するため、ノリ研究に特化した人材の育成・輩出も行っています。佐賀県が誇る農水産物をさまざまな角度から研究することで、地域の発展に寄与します。



### 03 「米」や「大豆」の品種改良の取り組み 自分たちでオリジナル品種の開発も

多様化する消費者ニーズに対応するために、米や大豆などのオリジナル品種の育成を目指して、学生自ら育種技術の開発や栽培技術の開発に取り組みます。生物資源教育研究センターで、実際にフィールド研究や遺伝子解析を応用した先進的な研究を行うことで、実践的な力も身に付けることができます。



#### 農学部開発のオリジナル品種・商品

計画・実行・評価・改善を  
繰り返して育てる「オリジナルダイズ」

遺伝資源を活用した画期的品種の育成を目指し、機能性ダイズ品種の開発に着手。栽培試験やデータ解析、植物工場におけるコストと生産物品質の検証、その後さらに改善を繰り返して、独自性が高い高付加価値なブランド品種育成に取り組んでいます。



佐賀大学ブランドとして  
親しまれている清酒「悠々知酔」

毎年、地元の酒造会社と協力して行う佐賀大学ブランドの清酒。原料の米選びから酒造会社との打ち合わせまで農学部の生徒が主体となって行います。「The SAGA認定酒」として一般の方にも販売されており、毎年多くの人々から好評をいただいています。



### 04 広いフィールドから 最新鋭の植物工場まで完備

生物資源教育研究センター / アグリファシリティ部門



久保泉  
キャンパス

圃場を利用して作物や果樹の栽培研究を実践的に学習。広いフィールドを使つての農業学習のほか、食品加工などのプログラムにも取り組みます。



唐津  
キャンパス

種々の天然資源に含まれる機能性成分を研究。唐津キャンパスでは、様々な天然資源から、人間の健康に資する成分の解析を進めています。



本庄  
キャンパス

最新の施設生産技術を学ぶ植物工場。農業新時代に対応するために開設された太陽光型植物工場。先端農業に触れられる実習施設です。

#### 教員紹介

- 後藤 文之 教授 施設園芸学
- 福田 伸二 教授 アグリ資源開発学
- 上埜 喜八 准教授 作物生産学
- 江原 史雄 准教授 動物行動管理学
- 川添 嘉徳 准教授 ケミカルバイオロジー
- 松本 雄一 准教授 機能性植物資源学



長崎県北振興局 農林部  
南部地域普及課(2025年度末時点)  
伊藤 咲乃さん  
農学部 生物資源科学科  
国際・地域マネジメントコース 2024年3月卒業  
[業務内容]  
生産者の声を聞き、技術などの提供を行い、農業の普及に貢献する。

#### 周囲の人と良好な関係を築きながら 自分らしさを大切にして仕事に取り組みたい。

私は現在、地元である長崎県の農業職員として、普及分野で働いています。生産者へ技術や病害虫の情報提供、資材検討の試験等を行っていますが、仕事の魅力は実際に現場に出向き、生産者の声を直接聞けることです。佐賀大学で学んだ経営学や植物生理学など、農業全般に関する知識がしっかりと役立っています。会議や研修会での内容理解、生産者からの問い合わせ対応もスムーズにでき、卒業論文執筆に取り組んだ事で、研修会などの資料作成や発表にも経験を活かしています。大学時代の一番の思い出は、スリランカでのフィールドワークです。友人や後輩とも仲を深め、初めての土地で食や人と交流できたことがとてもいい思い出です。仕事は一人では成り立ちません。周りの人と持ちつ持たれつ関係を大切にしなが、自分の役割を果たせる人でありたいです。





詳細情報はこちら



## 生物資源を活用し、 新たな農産物・品種を開発

地域の特色ある生物資源を活用した高付加価値の新規農産物や新品種の開発、効率的で収益性の高い農産物生産技術の開発、また多様な生物と環境との関わりや、新たな機能性を持つ生物素材の産業利用に関する教育研究を行っています。食用植物や園芸・薬用植物、植物病原菌、共生微生物、ウイルス、昆虫、線虫や哺乳類など多様な生物を取り扱い、生物資源の開発と応用に関する幅広い学問分野をカバーしています。フィールドワークや豊富な実験が組み込まれたカリキュラムで学ぶことにより、遺伝子や細胞レベルから、個体レベル、さらには生物間相互作用を基本とする生態系レベルまで、幅広い内容の専門知識と先端技術を修得することができます。

### 主な進路

- 〈就職先〉**  
公務員(福岡労働局、九州経済産業局、佐賀県庁、福岡県庁、熊本県庁、兵庫県庁、鹿児島市役所)、あじかん、(株)えひめ飲料、ジェイエイ北九州、日本香堂、いなば食品、九州シーア イーシー、(独)農研機構、第一三共ケルファーマ、新日本科学、久原本家、久光製薬 他
- 〈進学先〉**  
大学院進学(佐賀大学大学院、九州大学大学院、東京大学大学院など)



詳細情報はこちら



## 地球規模の課題に向き合い、 解決へと導く実践力を養う

環境保全・エネルギー・農業生産システムに関する先端技術の開発と利用は、地球規模に値する重大かつ重要な課題です。食資源環境科学コースは、これらの課題を解決するための教育、研究を行うことで、地域社会からの需要に応える農業の技術革新を先導し、地域の農業基盤を根底から支えることを目標としています。そのために農業機械・植物工場・コンピュータや通信等のICT技術や農業工学、また食品研究から土壌や環境水の分析化学等、さまざまな農業生産に関する先端技術を幅広く学ぶ機会を提供し、地域の農業現場をしっかりとリードする実践力を確実に養成していきます。なお、このコースは農学部における高等学校理科教員免許の主コースとなっています。

### 主な進路

- 〈就職先〉**  
公務員(九州農政局、佐賀県庁、長崎県庁、福岡県庁、山口県庁、鳥栖市役所、教諭(中学・高校)) / 民間((株)三拓コンサルタンツ、サンスイコンサルタンツ(株)、(株)竹中土木、(株)サタケ、(株)OPTIM)
- 〈進学先〉**  
大学院進学(佐賀大学大学院、九州大学大学院など)

### カリキュラム一覧

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」		
	共通基礎科目「情報リテラシー」	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)		
学部基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学	●生物化学 ●栽培学汎論 ●土壌学	●生物統計学 ●農業経済学 ●食品科学	
専門教育科目		●生物学概論I-II ●応用動物昆虫学 ●植物生理学 ●遺伝学 ●園芸学 ●行動生態学 ●生物学実験 ●フィールド科学基礎実習I-II ●群集生態学 ●昆虫学 ●線虫学	●食用作物学 ●植物育種学 ●植物病理学 ●畜産学 ●行動生態学 ●植物栄養学 ●熱帯作物学 ●野菜花開園芸学 ●昆虫学 ●線虫学	●果樹園芸学実験I-II ●熱帯作物改良学実験I-II ●野菜花開園芸学実験I-II ●植物分子育種学実験I-II ●動物資源開発学実験I-II ●動物病理学実験I-II ●分子遺伝学 ●昆虫学実験I-II ●生態学実験I-II ●作物学実験I-II
			●遺伝資源フィールド科学実験I-II ●科学英語 ●食品化学 ●動物飼養管理学 ●農業気象学 ●農薬・ネオマネジメント学 ●分子遺伝学 ●有機化学 ●微生物学 など	●卒業研究 ●生物科学演習I-II

### カリキュラム一覧

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」		
	共通基礎科目「情報リテラシー」	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)		
学部基礎科目	●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
	●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学	●生物化学 ●栽培学汎論 ●土壌学	●生物統計学 ●農業経済学 ●食品科学	
専門教育科目		●環境基礎解析学I-II ●応用力学 ●応用力学演習 ●生産情報処理学 ●農業水리학 ●農業生産機械学 ●農産食品流通貯蔵学 ●フィールド科学基礎実習I-II ●栄養化学 ●栽培環境制御学 ●生化学 ●遺伝学	●土壌環境科学 ●地盤環境学I ●環境水理学I ●環境水理学演習I ●農業生産機械学 ●農産食品流通貯蔵学 ●フィールド科学基礎実習I-II ●栄養化学 ●植物栄養学	●英書講読 ●環境水理学II ●環境水理学演習II ●測地学I-II ●測地学演習I-II ●地盤環境学II ●農料環境計画学 ●食資源科学演習 ●実験水気環境学 ●生物有機化学
			●昆虫学 ●園芸学 ●地球環境学 ●有機化学 ●分析化学 ●物理化学 ●植物生理学 ●食資源科学演習 ●海洋環境学 ●インターンシップ S-L など	●卒業研究 ●食資源環境科学演習 ●農業工学総合演習

### 授業紹介

#### 応用動物昆虫学



昆虫、線虫、ダニなどの発育と個体数を制御して被害を軽減する方法を理解するための基礎として、これらの動物の生理・生態について学びます。

#### 果樹園芸学

果樹を含む園芸作物全般の生理現象について講義し、果樹の品種、分類、遺伝・育種、栽培生理、健康機能性成分について理解を深めます。

#### 動物繁殖生理学

生命の連続性を理解するために哺乳動物における生殖現象の基礎を学び、当該分野において開発された技術の社会での活用について理解します。

### 教員紹介

- |                      |                      |                             |                     |
|----------------------|----------------------|-----------------------------|---------------------|
| 一色 司郎 教授<br>野菜花開園芸学  | 草場 基章 教授<br>植物病理学    | 古藤田 信博 教授<br>果樹園芸学          | 後藤 文之 教授<br>施設園芸学   |
| 鈴木 章弘 教授<br>作物生態生理学  | 辻田 有紀 教授<br>野菜花開園芸学  | 鄭 紹輝 教授<br>熱帯作物改良学          | 徳田 誠 教授<br>システム生態学  |
| 藤田 大輔 教授<br>熱帯作物改良学  | 山中 賢一 教授<br>動物資源開発学  | 吉 賀 豊 司 教授<br>線虫学           | 渡邊 啓史 教授<br>植物遺伝育種学 |
| 福田 伸二 教授<br>アプリ資源開発学 | 上 登 喜 八 准教授<br>作物生理学 | 江原 史雄 准教授<br>動物行動管理学        | 西田 翔 准教授<br>植物栄養学   |
| 松本 雄一 准教授<br>機能性植物学  | 秋沢 宏紀 助教<br>動物資源開発学  | カミズル サイド アイマン 助教<br>システム生態学 |                     |
| 千葉 悠斗 助教<br>ウイルス生態学  | 下村 彩 助教<br>作物生態生理学   |                             |                     |

### 授業紹介

#### 農産食品流通貯蔵学



青果物に含まれる栄養成分の種類と性質を知り、その品質維持を図るために必要な選別、洗浄、包装、貯蔵、輸送技術などについて学びます。

#### 土壌環境科学

農業生産の場である土壌の構造、水分保持特性および物質移動を学び、土壌劣化や土壌汚染などの問題に直面している農地環境の保全について理解を深めます。

#### 水環境学

地球上のあらゆる生物に必要な不可欠な「水」をとりまく現状や課題について学び、農業分野における水環境保全や水害に強い農村のあり方に関する専門的知識を身に付けます。

### 教員紹介

- |                      |                      |                           |
|----------------------|----------------------|---------------------------|
| 阿南 光政 教授<br>水環境保全学   | 近藤 文義 教授<br>生産地盤環境学  | 田中 宗浩 教授<br>施設農業生産学       |
| 宮本 英揮 教授<br>生産地盤環境学  | 弓削 こずえ 教授<br>灌漑科学    | 稲葉 繁樹 准教授<br>農業生産機械学      |
| 上野 大介 准教授<br>生産地盤環境学 | 郡山 益実 准教授<br>浅海干潟環境学 | 出村 幹英 准教授<br>微細藻類バイオマス利用学 |
| 徳本 家康 准教授<br>環境土壌科学  | 速水 祐一 准教授<br>海洋環境学   | 原口 智和 准教授<br>地域環境学        |



詳細情報はこちら



## 生命科学を理解し、科学的に思考できる人材を育成

生化学や分子生物学を基礎として、微生物からヒトにわたる幅広い生物の生命現象のしくみや機能の解明を行うとともに、それらを応用した食品機能の追求と開発、食品の安全性、バイオマスの利用について教育と研究を行うコースです。多様な生物の生命現象を分子レベルで解明するとともに、生物資源が持つユニークな機能を開発・利用することを目的に教育と研究を行います。生体における遺伝子発現や物質代謝とそれらの調節機構、食品の生体調節機能・栄養機能・物性や安全性について、基礎から専門に至る積み上げ方式で教育を行います。また、多様な生物の生命現象の解明、バイオテクノロジーを駆使した生物機能の改良と有用物質生産システムの開発、生物資源の生理機能や特性の化学的・栄養生理学的解析に基づく機能性食品の開発、食品の品質評価に関する研究を行っています。これらを通して生命科学、食糧科学について基本的な理解を深め、社会で活躍できる思考力と実践力を有する人材の育成を目指しています。

### 主な進路

#### 〈就職先〉

公務員(県庁、農業試験研究センター、市町村役場、教諭(中学・高校)) / 民間(山崎製パン(株)、東洋水産(株)、(株)不二家、(株)久原本家、キッセイ薬品工業(株)、積水メディカル(株)、アステラスファーマテック(株)など) / 教員(大学) / 法人団体(JA、化学物質評価機構など)

### カリキュラム一覧

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」		
	共通基礎科目「情報リテラシー」	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)		
専門教育科目	インターフェース科目			
	学部基礎 ●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
	専門導入 ●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学	●生物化学 ●栽培学汎論 ●土壌学	●生物統計学 ●農業経済学 ●食品科学	
専門科目など	●物理化学 ●有機化学 ●分析化学 ●生物有機化学 ●生化学 ●酵素化学 ●微生物学 ●食品衛生学 ●栄養化学 ●食品化学	●分子生物学 ●化学実験I・II	●食糧安全学 ●食品工学 ●食品機能化学 ●応用微生物学 ●食糧流通貯蔵学 ●水圏生物学 ●分子細胞生物学 ●生物資源化学 ●遺伝子工学 ●基礎放射線科学	●藻類学 ●生命機能科学概説 ●生化学実験 ●微生物学実験 ●インターンシップS-L ●基礎演習 ●生命機能科学演習I ●専門外書講読

### 授業紹介

#### 応用微生物学



微生物は人間の生存に大きく貢献しています。その微生物を利用した物質生産から環境浄化までの実例を詳しく説明します。

#### 化学実験II

食品に含まれる各種成分の分離、分析、定量化を行う実験手法、器具の操作方法について学び、科学的な思考を行う能力および観察力を身に付けます。

#### 栄養化学

食品成分の栄養機能性から最近の分子栄養学まで講義し、栄養素がどのように代謝され、どのような役割を果たしているのかの基礎知識を修得します。

### 教員紹介

木村 圭 教授 水圏生産科学	小林 元太 教授 応用微生物学	後藤 正利 教授 応用微生物学
宗 伸明 教授 分析化学	辻田 忠志 教授 生化学	永尾 晃治 教授 食品科学
永野 幸生 教授 応用生物化学	野間 誠司 教授 食品科学	濱 洋一郎 教授 水圏生命科学
堀谷 正樹 教授 生体関連化学	光武 進 教授 応用生物化学	井上 奈穂 准教授 食品科学
折田 亮 准教授 水圏生産科学	川添 嘉徳 准教授 ケミカルバイオロジー	龍田 勝輔 准教授 昆虫科学
関 清彦 講師 応用生物化学	眞榮田 麻友美 助教 応用微生物学	吉田 和広 助教 水圏生産科学



詳細情報はこちら



## 地域を知り、体験し、人々と出会い成長する

国際・地域マネジメントコースは、地域の農業と環境に関わるグローバルな知識と確かな理解に基づいて、農林漁業やその関連産業の持続的な成長に貢献できる人材の育成を目指しています。「地域」は、ごく身近な近所付き合いから市町、県、全国…に至るまで、様々な範囲で捉えることができます。そして、「地域」にはそれぞれ個性があります。そのため、「地域」の問題を考えるには、まずその「地域」のことをよく知ることが大切です。そこで、私たちは実際に「地域」を訪問し、自分の目でよく見て学びます。学ぶ内容は、自然環境・社会・経済・文化など幅広く、そこで暮らす人々との交流を通じて学ぶことを特に大事にしています。このような考えから、本コースでは、国内外でのフィールドワークを重視した特徴ある教育プログラムを用意しています。

### 主な進路

#### 〈就職先〉

公務員(農林水産省、佐賀県庁、長崎県庁、熊本県庁、山口県庁)、団体職員(JAなど)、教諭(中学・高校) / 民間(アグリビジネス関連企業、金融機関(銀行など)、報道機関(新聞・放送)、農業(農業法人・自営))、NPO・NGO団体

#### 〈進学先〉

大学院進学(佐賀大学大学院、九州大学大学院など)

### カリキュラム一覧

	1年次	2年次	3年次	4年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」		
	共通基礎科目「情報リテラシー」	基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)		
専門教育科目	インターフェース科目			
	学部基礎 ●生物学 ●物理学 ●化学	●基礎数学 ●基礎統計学		
	専門導入 ●アグリキャリアデザイン ●農学概論 ●農業ICT学	●生物化学 ●栽培学汎論 ●土壌学	●生物統計学 ●農業経済学 ●食品科学	
専門科目	●国際・地域マネジメント入門 ●アジア地誌 ●農村地理学 ●農業市場流通学 ●群衆生態学 ●地域再生論 ●地域マネジメント論 ●園芸学 ●農業水利用学 ●人間開発論	●社会調査実習I・II ●フィールド科学基礎実習I・II ●環境社会学 ●国際地域調査法 ●国際関係学要説 ●栽培環境制御学 ●経済法I ●昆虫学 ●経営管理論 ●農業生産機械学 など	●生態人類学 ●農業ビジネスマネジメント学 ●比較農政学 ●開発経済論 ●農村環境計画学 ●農村と産業演習I・II ●環境と生活演習I・II ●実践語学 ●アジア・フィールドワーク ●民法I・II	●インターンシップ S-L ●経営史 ●農村社会学 ●人口学 ●地域資源論 ●アグリビジネス論 ●協同組合論 ●環境法 ●干潟環境学 ●科学英語

### 授業紹介

#### 国際地域調査法



農業や農村が抱える諸問題に取り組むために必要な調査技法や理論を学び、後期からの授業や卒業論で実際のフィールドワークに応用していきます。

#### 農村社会学

地域社会の基礎構造について学び、フィールドワークの際に、その背景となる地域コミュニティの情報を多面的に捉える視点と方法を修得します。

#### 農村と産業演習

農業経営の管理や成長に関わる多岐にわたる課題の中から具体的な問題を設定し、その解決に向け、グループワークによって情報の収集と分析、考察を行います。

### 教員紹介

辻 一成 教授 食農ビジネス開発学	藤村 美穂 教授 地域社会開発学
中井 信介 准教授 文化生態学	李 錦東 准教授 食農ビジネス開発学(国際交流推進センター兼任)
稲井 啓之 講師 地域社会開発学	チャン ティウトウイ 助教 食農ビジネス開発学
皆木 香渚子 助教 地域社会開発学	